

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100469		
法人名	特定非営利活動法人よつば荘		
事業所名	グループホームよつば荘		
所在地	宮城県遠田郡美里町北浦字船入2番地61		
自己評価作成日	令和 1 年 12 月 10 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1 年 12 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフと利用者様がもっと深く信頼関係が保てるように、受け持ち担当の介護支援を強化しています。1年間で担当者は交代しますが、その期間に利用者様の要望・不満等に耳を傾け、個々に合ったサービスをする事で利用者様の笑顔の増加につながるよう努力しています。一対一の関係になることでそのスタッフに安心感を感じて頂き、担当者が一カ月単位で予定を利用者様と話し合い、「今度は買い物」「今度は公園まで散歩」というような計画を立てることが、利用者様の生きがいに感じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小牛田駅から徒歩5分、一戸建平屋の1ユニットである。通りに面した外壁には、シンボルマークの四つ葉のクローバーがある。近くには職員と一緒に食材やおやつの買物ができる商店街があり、散歩しながら戸外へ出る楽しみがある。月2回、民謡の先生が来訪し、民謡教室を開いている。入居者は練習に来る地域の人達と一緒に、先生が吹く尺八に合わせ民謡を唄い、楽しい時間を過ごしている。日常的に取り組む職員が入居者に寄り添い、地域住民の協力により入居者の笑顔と笑い声が響く、地域に溶け込んだ家族的なホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームよつば荘)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・ゆかいに・ゆたかに」を理念とすることで、利用者様も職員ものんびり・楽しく暮らしていこうという共通の考えを持つことが出来ている。	職員が再確認できるよう、玄関に掲示している。理念を基に、家庭的な雰囲気の中で、自分らしく過ごせるよう、支援に努めている。入居者と向き合い、共に笑顔になれるケアを継続している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の住民が時々訪ね、利用者様の話し相手になっている。近所には高齢者世帯が多く、困りごとなど、よつば荘で出来ることは相談に乗り協力させてもらっている。	町内会の夏祭りに入居者、職員が参加した。台風の夜に「1人でのいるのは怖い」と近所住民が来訪した際は、ホームで宿泊してもらった。地域交流を深め、支え合い信頼しあえる関係づくりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の症例として、要介護1～5はそれぞれどんなものなのか、また対応として何が適切なのかを話し合うことがある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に一度開催し、区長や地域住民から災害の情報などを意見交換している。また、行政職員から社会福祉協議会で開催される交流会の情報を受けることもある。	地域包括職員、地域住民、家族の参加で年6回開催している。区長から台風被害、交通事故、独居老人の報告があった。地域包括職員の提案で、傾聴ボランティア「うさぎの会」が来訪し、入居者と交流した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者から入居者依頼の申し出があり、連携しながら入居までに至った。よつば荘の現状を知ってもらい、協力し合い利用者様を支えていると感じている。	役場の担当者から、困難事例の入居依頼があり、役場担当者と連絡を密にし、相談するなどの連携を図り、現在は穏やかに暮らしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会をはじめ、利用者様の行動・所在を確認し、拘束しないケアに取り組んでいる。身体拘束適正化検討委員会を開催し、職員間でも周知・徹底するよう心掛けている。	身体拘束適正化検討委員会を年4回開催している。拘束の実例を職員全員で話し合い共有し、適切なケアの実践に取り組んでいる。日中、玄関施錠はしていないが、夜間は防犯上から施錠必須としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言動に気を付け、思いやりのある言葉で接するように気を付けている。目配り・気配りのある寄り添ったケアに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の外部研修会に職員2名が参加し、勉強したことを内部研修会で報告した。制度についても知る機会があれば、積極的に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、文章等により説明し、理解を頂いている。普段の訪問時にも不安や疑問などの意見交換を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、家族の要望は1対1になれる場所で聞き、申し送りやミーティングのなかで話し合い、その対応を考えている。外部で話し合える内容の場合は運営推進会議の中で意見交換し、業務に役立っている。	色麻町の芍薬が満開という、家族からの情報で、ドライブに行き楽しんで来た。行事の都度、写真を撮り、入居者の生き生きとした表情を「よつば荘新聞」として編集し、家族に送付して喜んでもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや面談する機会を設け、話し合いをし、より良い職場環境づくりに努めている。	資格取得は、職員のやる気アップに通じると考えている。初任者研修・防災管理者は各1名、介護福祉士は2名の合格者がいる。ホームとして助成し、職員のスキルアップ支援に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の貢献度や自己研鑽については、キャリアパス制度により研修計画を立て、整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるようにシフトの調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美里町のグループホーム連絡会に参加し、意見交換している。県庁で行われた地域密着型サービスの研修会に2名参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室にて、利用者様と向かいあって不安や悩みを伺っている。入浴時にも1対1の空間で意見を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の訪問時に利用者様の状況報告をしている。お互いに今後のことについて話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況を把握し、ニーズを検討し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何気ない会話のなかで、「今日は何を食いたいですか?」「天気がいいから、洗濯しちやいましょうか」など家庭にあるような会話により、緊張し合わない関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様だけのことに限らず、御家族の悩みにも寄り添い、お互いに良くなるように関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所へドライブへ行くこともある。利用者様から希望があれば、ご家族へ地元への外泊・外出を依頼することもある。	昔、よく食べたイチジク饅頭屋に出掛けた。行く途中の風景を懐かしみ、話が盛り上がり馴染みの店主とも会え、饅頭を食べ喜んでいった。一人ひとりの思い出や、人との繋がりを大切にしよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎食、顔を合わせて食事をしている。利用者様同士、遠慮しながら接することもあるが、職員が間に入って楽しく過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去となった利用者様は、病院とのつながりによって状況を報告されることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室にて、個人面談を実施している。利用者様が抱える悩みや希望に耳を傾け、自己決定を引き出せるようにしている。	ホーム主催のスマイルカフェでは、元教師だった入居者が劇の台本を書き、入居者と職員が役に扮した「よつば座」を開催した。地域住民、家族を招待し、楽しむこと、生き甲斐を感じてもらえるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴が分かる基本情報を作成し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を観察し、現状に合ったケアが出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別に担当者を決め、利用者様と面談をしたのち、ミーティングを行い職員全員の意見を反映させながら支援計画を作成している。	居室担当者が当月の情報を集め、職員間で会議を行ない、ケアマネジャーが現状にあった介護計画書を作成する。家族から現状維持を望む要望がある場合は、歩行訓練等を計画書に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や、連絡ノートを見て申し送りを行っている。その日に合わせたケアをするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化に気づき、本人の意思を尊重して対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残存能力を活かし、出来ることを奪わないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が協力医療機関なので、看護師とともに受診している。本人の希望があれば、家族に連絡を取り、家族とともに受診をすることもある。	ほとんどの入居者は、協力医療機関を受診している。バイタル記録を持参し、同行した看護師は受診後、家族に連絡している。協力医は緊急時対応も行う。協力歯科医は月1回、訪問診療を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも看護師に連絡し、適切な措置をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変があれば時間外に関わらず受診しており、十分な理解と協力がある。サマリーなどで情報交換の体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取りを希望する利用者は無し。本人、家族が望めば看取りまで行える環境にある。	これまでに2名の看取りをした。ホームでは「看取りの指針」により家族に説明している。終末期ケアについて、医師の判断により、家族に事前説明と確認を行なっている。入居者、家族の意向に沿えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の対応は常駐している看護師に意見を仰ぐようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民を交えた避難訓練を行っている。運営推進会議の中で地域区長と話し合い、連絡体制をとっている。非常食・備品など準備している。	夜間想定を含め、年2回避難訓練を実施している。地域住民、区長の参加もあり、水害、防災の協力体制を築いている。防災設備は、毎年12月の訓練時、業者に点検を委託している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	掃除をする時は本人に声掛けをしてから入室するようにしている。これまでの生活習慣を尊重し、食事や就寝のタイミングなど本人のペースを崩さないようにしている。	名前の呼び方は、「さん付け」で呼んでいる。居室に入るときは、ノックや声掛けをしてから入室する。夜の入室は、ドアに付いている小窓から居室の様子を確認してから入室するよう、職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話してくれたことを否定せず、傾聴するようにしている。「どちらがいいのか」というような質問をし、自己決定してもらうように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事やレクリエーション・入浴など、行うことが決まっている日は本人の意向を確認してから参加してもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでもらっている。新しい服が欲しいと希望があれば、家族に確認し、買い物の同行支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が声をかけ、利用者様に食べたいものなどを尋ねることがある。食後の後片付けは利用者様が出来る範囲で協力してもらっている。	献立は、入居者の希望を聞き職員が作成している。野菜を中心の栄養バランスに配慮している。通院時のデータを参考に食事制限等の対応をしている。おやつ作りや外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食べた量・水分量を記録している。本人の健康状態を確認し、調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時、声掛けや一部介助にて対応し、毎食後、自主的に行っている利用者様もいる。毎朝口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、声掛け・誘導している。日中はトイレでの排泄を促し、夜間はふらつきも見られ危険が伴うのでポータブルトイレで排泄してもらうようにしている。	排泄記録で排泄パターンを把握している。立位保持ができない方は、オムツとパットをしている。他はリハビリパンツを利用している。夜はポータブルで、日中は声掛けでトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックと排便状況を記録している。医師の指示のもと下剤の服用も考慮している。また、散歩をしたり、下腹部のマッサージなどを看護師の指示のもと行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日に入浴の日を決め、その中で本人の希望に合った日に入浴を実施している。	バイタルチェックをし、週2～3回入浴している。浴室での会話は、愚痴や昔の友人の話が多くケアに繋がることも多い。入浴を無理強いすることはなく、清拭により清潔を維持できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握し、それに沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の確認を行っている。病状の変化は毎日把握し、申し送り等されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別担当を決め、1対1の関係で話せる環境を作っている。担当者が利用者様と面談し、してみたいことや欲しいもの、行きたいところなどを尋ねて支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1、2回外出できるように支援している。カラオケが好きな近隣住民と一緒にカラオケ屋に行ったり、利用者様と相談して散歩などにも出かけるようにしている。	近隣の商店街へ食材を買いに行ったり、アイスクリームを食べに行くことを楽しみにしている。カラオケに歌が好きな住民と一緒にいる。松山コスモス園へ家族と一緒に行き、外食をして来た。安全に楽しく外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態に応じて金銭管理をしてもらっている。希望があれば職員が付き添い、買い物の外出支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時、電話の貸し出しや、手紙の投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間・居室・廊下に季節の花を飾っている。廊下には一年間の行事の写真を貼り、楽しんで見てもらうようにしている。	リビングは天井が高く、明るく開放感がある。窓際にあるソファは、話し合える居心地の良いスペースになっている。広い廊下の一角に雑誌、書籍、新聞があり、居室に持って帰ってゆっくりと読んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはカラオケを設置しているので、好きな時に歌うことが出来る。少人数でランプゲームをしたり、会話を楽しんで過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真などを飾り、自分だけの空間を意識出来るようにしている。家電製品などの持ち込みをしている。	エアコン、ベッド、チェストは居室に備え付けてある。テレビ、ハンガーラック、テーブル、仏壇を持参している人もいる。居室に洗濯物を干したりたたんで片付けるなど、その人らしく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に図書コーナーを作り、週刊誌や文庫本などを置き、好きな時に読書してもらっている。歩行バーを設置して、歩行訓練を行っている。		